優秀賞
組合員ホール

熊本県
岩下兄弟株式会社
「熊本豪雨災害からの復興活動『がんばるばい人吉』」事業

岩下兄弟株式会社
代表取締役社長
岩下洋三さん

記録的な大雨で大きな被害を出した地域の復興に全社体制で取り組む

令和2年7月豪雨で氾濫・決壊した球磨川水系の人吉市で復旧に取り組む

新型コロナウイルスの感染が続くなか、大きな自然災害に見舞われることは二重の苦しみに違いない。それが現実に起きてしまったのが、2020年7月の「令和2年7月豪雨」と命名された記録的な大雨である。この豪雨による被害は全国におよび、被災地域は35府県（災害対策本部発表）となった。なかでも深刻な事態に陥ったのが熊本県であり、死者65名、行方不明者2名（総務省消防庁、2021年2月26日現在）を出すにおよんだ。とりわけ県南部を流れる球磨川水系では、人吉市、球磨村、芦北町、八代市の一部など計13か所が氾濫・決壊し、広大な面積が浸水した。球磨村にあった特別養護老人ホームでは、水没した施設で14名の入所者が死亡するという痛ましい事態となった。

人吉市に本社を置き、熊本県と宮崎県に25ホールを展開する岩下兄弟株式会社では、本社併設ホールである「モナコパレス青井本店」が被災した。青井本店ではホール内に水が流れ込み、床から50～60cm付近まで浸水し、1ヵ月余り休業を余儀なくされることになった。しかし、同社では営業再開まで手をこまねいていたわけではなく、自らが被災したにもかかわらず、地域の復旧・復興に向けて精力的に活動することにした。その基盤には、これまで同社が積み上げてきた社会貢献活動に対する取り組みがあり、九州北部豪雨、広島市土砂災害など、災害ボランティア活動にも積極的に参加してきた。

ホール駐車場の一角を水害によって町中から出た大量のゴミの仮置き場として提供

メッセージがプリントされたTシャツを製作し、ボランティア団体や行政関係者などに配布

備品を保管するための倉庫も寄贈

従業員の安否確認や住宅提供に続き近隣住民のために支援活動を実施

同社がまず行ったのは、被災地域の従業員の安否確認だった。幸い死傷者はゼロだったが、人吉地区を中心に自宅が床上浸水した従業員やパートスタッフが約40名いたため、その人々のために寮や借り上げ社宅、さらに仮住まい先などを確保して提供した。次いで社内でボランティア隊を結成し、被災した社員らの住宅の泥の掻き出しや清掃などの支援活動に取り組んだ。

次に、地域社会に対する活動として人吉市内の本店の立体駐車場を近隣住民の緊急避難場所として開放したほか、ホール駐車場の一角を水害によって町中から出た大量のゴミの仮置き場として提供した。さらに復旧・復興にあたる地元の人たちを元気づけようと、岩下博明会長（当時、現特別相談役）がデザインした、「がんばるばい人吉」のメッセージがプリントされたTシャツ1,000枚製作し、ボランティア団体や行政関係者などに配布したほか、人吉市内の飲食店などが集まる「人吉復興!コンテナマルシェ」が2021年1月に開設されたので、本店駐車場を貸し出したり、新型コロナ感染対策としてハンドジェル9,000個の提供やテーブル・椅子など備品を保管する倉庫も寄贈した。

こうした支援活動の先頭に立った岩下洋三社長は、「今回の豪雨被害による社員への安否確認や支援物資の手配などに関し、指示命令系統を明確化して迅速・適切に対応できたのは、2016年に発生した熊本地震での経験が非常に役立ちました。ここ数年、日本各地でこれまで経験したことのないような局地的な豪雨被害が発生しているので、自分たちには無縁と思わずに、災害発生時の体制の整備を是非していただければと思います。今後も長期的な支援活動を続けていきたいと考えています」と話している。